

9月の記念コンサートに向けての打合せ風景
於:いずみホールにて(6/2)

片道二時間!

アルト
榊原 孝子

第三回定期演奏会は、客席で聴いておりました。「第九」は歌いたかったです。「モツレク」までは歌えないと思っておりました。第四回は「第九だけ」と伺い、この年の九月より練習に参加させて頂いておりました。

定期演奏会会場は、団員も一つとなり設置する等の手作りの会場に心が温かくなり、私の定期演奏会デビューは、無事終える事が出来ました。

多田先生の補講に感謝

ソプラノ
井上 加代子

私は音楽・歌が大好きなので、大正フロイデ団員として素敵な諸先生方に教えて頂いて、喜びを感じています。

学校の音楽でしかクラシックに触れる機会が無かったので、ドイツ語もラテン語も全然分からなかった私

「第九」だけと思っていた私でしたが、明るくそして元氣な方々と一緒に歌う喜びを覚え! 諸先生方の指導のもと、数々の歌曲を歌える喜びを覚え! 兵庫県三田市より、片道二時間かけても練習に通いたいと思ひ、今に至って居ります。

今後の課題は「声」を響かせる! です。

第五回定期演奏会に來聴してくれた友人から「合唱を聴いていて涙が流れた」の嬉しい言葉に、聴いて下さる人の心に届く歌を歌いたい! 体力が続く限り、大正フロイデの団員でありたいと願っています。

諸先生方、コミ協の皆様、団員の皆様、これからもよろしくお願い致します。

に、楽しく分かりやすく、熱心に指導して下さいます。生方に感謝して下さる諸先。素晴らしさに気付かされました。

多田先生の補講には、毎回出席しています。DVDを観ながらの練習は、難しい「レクイエム」なので、こんな感じの曲なのかと分かり、とても助かっています。多田先生のお陰で、いつもより早く歌える様になって感謝しています。

五周年記念コンサート、団員の皆さんと頑張つて成功させて、音楽の喜びを分かち合いたいです。

その日まで、定期練習、補講、家での練習に励みます。コーラスはずっと続けて行きたいので、大正フロイデに関わる皆様、これからもよろしくお願いします。

茨木の辯天さんに
参加してアルト
浅野 和子

四月十日、満開の桜の下、茨木の辯天宗へ東日本大地震での犠牲者の鎮魂と被災地復興の祈りを込め、「第九」と「ふるさと」の四季」を歌に行きました。

「満五才を迎えて」

バス
三好 哲郎

一人とかの信者さんを中心に、それはそれは大きなテントの中で、百人を超える楽団とコーラス隊六百余人余りの人達が、私達のアイドル高谷さんの指揮で、厳かに声高らかに歌いました。

高谷さんはいつも力強く指揮して下さいるので、とても歌いやすい「第九」の第一、第二楽章の間、テントの裏で立って待っている時は、しんどくて辛かったけどそれも忘れてしまう程でした。

やはり「第九」は良いですね。「ふるさと」の四季も、オーケストラのすぐ後ろで歌うのは気持ちの良いものでした。

今回、大正フロイデのアルトは、コントラバスのすぐ後ろで歌いましたが、こんな経験も初めてで楽しかったです。

いつも感じる事ですが、歌い終わった時の達成感がたまりませんでした。満足感と少しの疲労感を感じながら、桜の満開の中、帰路につきました。

六月九日、我が「大正フロイデ合唱団」は、満五才を迎えました。

五年前、大正区第九合唱団結成、団員募集の記事を見て、学生時代から離れていたコーラスをしたい、憧れていた第九を歌いたいという気持ちだけで、即座に申し込んだのをよく覚えております。

そして感激の初演以降、多種多様な演奏会に参加できたのは、団員の皆様との連帯感、総合プロデュースの企画力、諸先生方の熱心なご指導の賜と、心より感謝しております。

さて五年という大きな節目に当たり、私は自分自身と合唱団全般の反省や、今後を考える絶好の機会だと思っております。

個人的には、練習日以外の練習方法の見直しが課題であると考え、合唱団について、組織の充実化を図る為、とりわけパートリーダーの設置と連絡網の作成が早急に必要だと思います。

大所帯であるが故に、困難な事も多いと感じていますが、今こそ原点に戻って、皆で知恵を出し合って考え、より素晴らしい合唱団創りを目指そうではありませんか。

何はともあれ、今は九月の記念発表会の成功が全て。全員で頑張りました。